

日本セッション報告⑥

製造メーカーにおける図面、CADデータの長期保存システム事例

コダック株式会社／日本画像情報マネジメント協会（JIIMA）

下嶋 秀樹

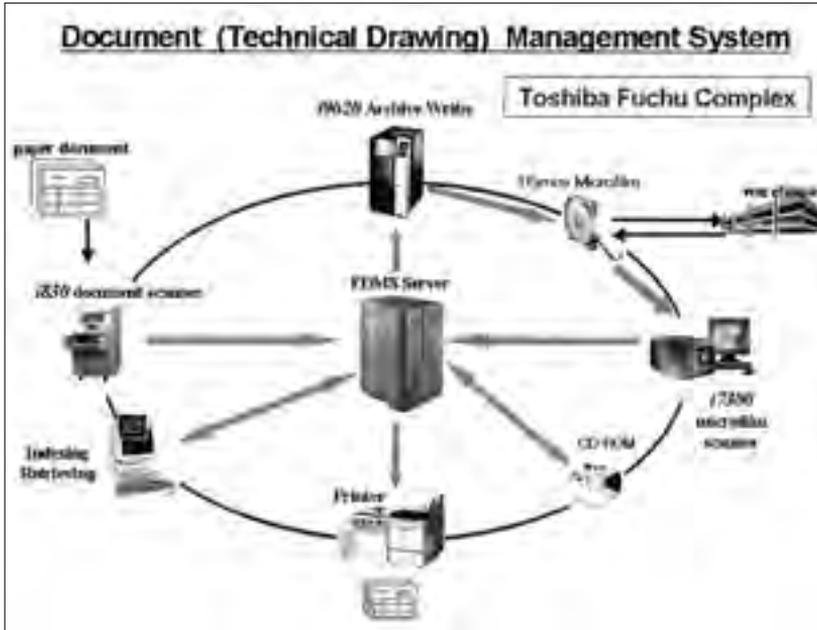
日本の民間企業におけるアーカイビングの事例として、(株)東芝 府中事業所における、図面、技術資料およびCADデータを保存、管理するための長期アーカイブシステムについて紹介する。

世界第9位の総合電気メーカーである(株)東芝の中で、府中事業所は、主力工場の一つとして社会インフラ関連製品（電力、公共システム、鉄道など）の開発、製造を行っている。製品の性質上、そこで利用される図面、技術資料の長期間に渡る保管、管理は、非常に重要なテーマとなっている。東芝府中事業所では、3,000万枚以上の全ての図面をデジタル化することで、20万回／月という非常に高い利用率を誇る図面管理システムを構築した。A3サイズ以下の紙図面のデジタル化にはコダック社のドキュメントスキャナが利用され、解像度400dpiの高品質なイメージを、効率良く生成することを可能にしている。現在では、CAD等の電子データも、イメージデータへ変換した後、デジタルのまま保存することができるシステムとなっている。

東芝府中事業所では、さらに、災害対策、リスク管理、エビデンス性の確保、そして図面の長期安定保存を実現するため、マイクロフィルムを利用した長期アーカイブシステムを構築した。ここではコダック社のi9620マイクロフィルムライタが使用され、CADデータやPDF等の電子データも直接マイクロフィルムに変換され、イメージ品質とともに作業効率を高め、1日当たり2～3万イメージのフィルム化を行っている。

これらにより、東芝府中事業所では、マイクロフィルム化から復元までの全てを網羅し、30年以上に渡って安定した長期アーカイブを実現する図面管理シ

システムの構築、運用に成功している。東芝の他の事業所、さらには他のメーカーにおいても、デジタルドキュメントの長期アーカイブという観点から同様のシステムの構築が検討されている。



下嶋氏の発表